

# 日本分類学会連合 第2回シンポジウム

このシンポジウムは、日本の生物多様性の現状把握とその研究を発展させることを目的に、国立科学博物館との共催事業として一般公開で行われます。

と き：2003年□月11日（土）13:00 - 17:00 シンポジウム 1  
□□月12日（日）10:00 - 15:00 シンポジウム 2

ところ：国立科学博物館分館（東京都新宿区百人町3-23-1）

## プログラム

### シンポジウム 1 「日本の生物はどこまでわかっているか－既知の生物と未知の生物」

- 柘原 宏（国立環境研究所）：既知種数と未知種数に関するアンケート調査結果  
松浦啓一（国立科学博物館）・瀬能宏（神奈川県立生命の星・地球博物館）：日本に魚は何種いるのか－既知種と未知種をめぐる問題  
白山義久（京都大学）：未知種の宝庫 メイオベントスの世界  
青木淳一（神奈川県立生命の星・地球博物館）：身の回りにいくらでもいた名無しのダニ類－土壤動物の世界の扉を開く  
邑田 仁（東京大学）：マムシグサは1種か30種か－これからはじまる植物種の構造解析  
出川洋介（神奈川県立生命の星・地球博物館）：これからの菌類分類学に求められること  
篠永 哲（東京医科歯科大学）：日本産の双翅類は分類学的にどこまで分かっているか  
石田健一郎（金沢大学）：細胞内共生による葉緑体の水平伝搬がもたらした藻類の多様性

### シンポジウム 2 「ヨーロッパが所蔵する日本産生物タイプ標本－日本の生物多様性研究発展の鍵」

- 伊藤元巳（東京大学）：GBIF, GTIの活動とタイプ標本  
山口隆男（熊本大学合津マリンステーション）：シーボルト収集標本を調査して  
西川輝昭（名古屋大学博物館）：デーデルラインコレクション調査から見えてきたもの  
上田恭一郎（北九州市立自然史・歴史博物館）：シーボルト収集昆虫標本の概略とその今日的意義  
駒井智幸（千葉県立中央博物館）：分類学者はどうして古い標本を見たがるのか？－デーデルライン採集甲殻類標本調査の成果  
藤井伸二（大阪市立自然史博物館）：シーボルト植物標本に見る科学の目－標本における生物情報の編集を例に  
藤田敏彦（国立科学博物館）：フランツ・ドフラインと相模湾の深海動物  
並河 洋（国立科学博物館）：相模湾調査120年史

（財）国際花と緑の博覧会記念協会助成事業

#### 主催：日本分類学会連合

- 種生物学会 □ □ □ 日本線虫学会
- 地衣類研究会 □ □ □ 日本藻類学会
- 日本貝類学会 □ □ □ 日本動物分類学会
- 日本魚類学会 □ □ □ 日本土壤動物学会
- 日本蜘蛛学会 □ □ □ 日本爬虫両棲類学会
- 日本原生動物学会 □ □ □ 日本哺乳類学会
- 日本甲殻類学会 □ □ □ 日本植物分類学会
- 日本古生物学会 □ □ □ 日本菌学会
- 日本昆虫学会 □ □ □ 日本珪藻学会
- 日本シダ学会 □ □ □ 日本プランクトン学会
- 日本鞘翅学会 □ □ □ 日本地衣学会
- 日本生物地理学会 □ □ □ 日本ダニ学会
- 日本蘚苔類学会

#### 共催：国立科学博物館

<http://www.kahaku.go.jp>



#### 問い合わせ先

日本分類学会連合シンポジウム準備委員会  
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1  
東京大学理学系研究科生物科学専攻  
加藤雅啓 (sorang@biol.s.u-tokyo.ac.jp)  
Tel. 03-3818-5367

日本分類学会連合事務局  
〒169-0073 東京都新宿区百人町3-23-1  
国立科学博物館動物研究部  
友国雅章 (tomokuni@kahaku.go.jp)  
Tel. 03-3364-7120

日本分類学会連合ホームページ  
<http://www.bunrui.info>